

2019. 11. 09

世田谷区玉川小学校 家庭教育学級 講演会

## 小学生に伝えたい 性の話

麻の実助産所 土屋麻由美

<http://asanomi-iyosaniyo.com>

### 1. 子どもたちを取りまく環境

- インターネット・漫画・雑誌・DVD・テレビなどの性情報は子供たちのすぐそばにある
- 地域(学校・家庭)における性暴力の被害者になりやすい。加害者になってしまうこともある
- 正確な知識を学んだり、問題への対処方法を学ぶ機会が少ない
- 自分の個人情報(写真を含め)が簡単に拡散されてしまう
- マッチングアプリ(友だち見つけようサイト)を悪用する人もいる。  
(カカオトーク、マリンチャット、ひま部、ひまトークなど)
- SNSにおける被害児童は増加している

### 2. 性の健康教育はいつから始めたらよいの？

- 人はうまれたときから性と生に向き合っている
- その子の発達や興味にあわせて話すのが一番...聞かれた時がタイミング
- 親も性の知識が十分ではない 子どもの「なぜ？」をうけとめ一緒に考え話すことが大切 思春期に入ると、話そうと思っても話しづらさを感じる人は多い
- 教えるのは一度だけじゃない 何度でも話しておくことが大切
- 全人的な性教育 国際セクシャリティ教育ガイダンス(ユネスコ)では  
4つの段階(5~8歳・9~12歳・12~15歳・15~18歳以上に分けて、  
6つの学習目標を学ぶ  
①人間関係 ②人間の発達 ③価値観・態度・スキル ④性的行動  
⑤文化・社会・人権 ⑥性と生殖に関する健康

### 3. 幼児期~小学生のあいだに子どもが知っておいたほうが良いこと

- 1) 性の自己決定
- 2) 好きになる人のこと(異性愛、同性愛、両性愛)
- 3) 男の子と女の子の体の違い 生理と精通について 多様な性
- 4) 性器の洗い方
- 5) 性器をさわること(せいきいじり・マスターベーション)
- 6) プライベートゾーン・プライバシー

- 7) 受精・性交について
- 8) おなかにいたときのこと・うまれるということ
- 9) ひとが嫌がることはしない ひとを傷つけない 嫌な時にはNOと言ってよい
- 10) 自分を守る 安心・自信・自由

☆教えるだけではなくて、子どもに考えさせたり、自分の考えや意見を話させることが必要  
☆子どもが、その言葉をどこまで知っているのか、どんなことがわからないのかをきちんと聞くことが必要

#### 4. 子どもに性を伝えるときの3大原則

- 1) うそをつかない
- 2) ごまかさない、はぐらかさない
- 3) 否定しない

#### 5. 性被害・性犯罪にあうと

- ・被害にあうとさまざまな反応が起きることがあります。
- ・被害を思い出せなくなること、説明があいまいになったり、話のつじつまがあわなことも被害後によくあることです。うそをついているわけではありません。
- ・回復は時間がかかることもあります。思うように回復しないのは甘えているからだと思う人もいますが、そうではありません。

#### ★身近にいるあなただからできること

- ・相手を責めたり、否定したりせずに、ゆっくり話を聞いてください。
- ・話は疑わず、信じて聞いてください。
- ・「なぜ」「どうして」などは、責められているように感じることもあります。
- ・「たいしたことない」「早く忘れなさい」などは、却ってつらくなることもあります。
- ・がんばっているのに「がんばって」と言われるとさらにつらくなることもあります。
- ・急がせず、あせらずにゆっくり見守ってください